

資 料

床上臥床状態にある患者への看護技術「陰部洗浄」に関する 学習教材の状況

The situation of the learning materials about the Perineal Care Nursing
Skills on Bed Care Patients

山本洋子¹⁾, 松原美紀²⁾, 小平京子¹⁾, 笠岡和子¹⁾
松尾潤子²⁾, 柳澤恵美³⁾, 神山幸枝³⁾

1) 関西看護医療大学 基礎・成人看護学

2) 前 関西看護医療大学 基礎・成人看護学

3) 前 関西看護医療大学 地域老年精神看護学

Yoko Yamamoto, Miki Matsubara, Kyoko Kodaira,

Kazuko Kasaoka, Junko Matsuo, Emi Yanagisawa, Yukie Kamiyama

1) Kansai University of Nursing and Health Sciences, Faculty of Nursing, Fundamental and Adult Nursing

2) Kansai University of Nursing and Health Sciences, Faculty of Nursing, Fundamental and Adult Nursing
(previous job)

3) Kansai University of Nursing and Health Sciences, Faculty of Nursing, Community Health, Gerontological
and Psychiatric Nursing (previous job)

要旨：床上臥床状態にある患者に対する看護技術「陰部洗浄」の看護実践能力を高めるための看護技術修得支援プログラムを作成することを最終目的とし、その基礎資料となる「陰部洗浄」に関する実態調査を行った。本報告では、陰部洗浄に関する「学習教材の状況」について報告する。分析対象は、書籍と視聴覚教材であり、実際に記載内容を確認できたものはそれぞれ82冊、6教材であった。「陰部洗浄を行うタイミング」について記載のあるものは少なく、表記内容は、排泄等で汚れた時とするものがほとんどであり、便器を使用する方法が基本として記載されていた。便器およびオムツ以外で使用されている物品の記載内容には大きな違いはなかった。しかし、臨床で必要とされているスタンダードプリコーション（標準予防策）に関する物品の記載のないものが多かった。陰部洗浄の手順において、女性に行う方法は大きな記載が多く、男性の場合は具体的な部位および手順があるものが多かった。また、「便器を使用するのか、オムツを使用するのか」以外の陰部洗浄方法に関して明確な根拠を記載した教材はほとんどみられなかった。

キーワード：看護基礎教育、陰部洗浄、床上臥床患者、看護実践能力

Keywords : basic nursing education, perineal care, bed care patients,
nursing practice capability

I. はじめに

近年、看護師に質の高い看護を提供する能力が求められる一方、看護基礎教育課程で培われた学生の看護実践能力と、就職後に臨床で求められる看護実践能力との乖離が問題となっている。このような乖離が生じる要因として、臨床で求められる看護実践能力が高まっていることだけではなく、看護基礎教育で学習する内容が臨床で実践されている内容とは異なっており、現実に即したものではないことが推察される。例えば、今回研究対象とした、床上臥床状態にある患者への「陰部洗浄」は臨床においてオムツ上で行う傾向がある。しかし、看護基礎教育課程で学生が学習している内容を研究者らの教育経験や主にテキストとして使用されている書籍を基に考えると、便器を用いた方法が主流といえる。

床上臥床を余儀なくされる患者において陰部洗浄は、排泄物や分泌物から皮膚を守り、二次感染を予防するとともに悪臭や掻痒感等の不快感を低下させて爽快感をもたらすなど重要な清潔援助技術である。また、陰部洗浄はルチーンの援助技術ではなく、患者の状態や状況によってどのようなタイミングで何を用いてどのように行うかといった判断をしなければならぬものである。したがって、陰部洗浄を実践していくには、その手順だけではなく、根拠に基づいた知識と判断力が求められる。

一方、学生の技術力の育成・向上に大きな役割を果たすのは実習であり（田代 他, 2005）、患者の安全確保が最優先される実習での学生による看護技術の実施は、実習前に援助内容に関する知識・技術を実施可能なレベルまで習得させておくことが前提となる（永松 他, 2008）。つまり、実習という看護実践の場では、必要な時に適切に援助できるように、学内での知識に基づいた技術の修得が必要である。

しかし、看護基礎教育で学習する内容が臨床で実践されている内容とは異なり、現実に即したのではないことが推察されるなか、看護基礎教育課程で学習している内容や臨床で行われている内容の実態についての報告はみられない。そこで、我々は、床上臥床状態にある患者に対する看護技術「陰部洗浄」の看護実践能力を高めるための看護技術修得支援プログラム（方法、チェックリスト、視聴覚教材）を作成することを最終目的とし、その基礎資

料となる「陰部洗浄」に関する実態の把握を2つの視点で行うこととした。1つは、今回報告する「学習教材の状況」、もう1つは、「臨床で実践されている方法および大学で教授されている内容」である。

II. 研究方法

1. 分析対象

2010年までの過去10年間に出版され、表題に「看護技術」「介護技術」が含まれている既存の書籍および「看護技術」の視聴覚教材（VHS,DVD）

2. 分析方法

「陰部洗浄」に関する記述および映像を抽出し、以下の内容について比較した。

- 1) 陰部洗浄を行うタイミング
- 2) 陰部洗浄の使用物品
- 3) 陰部洗浄の手順
- 4) 方法の根拠

基準とした資料は「系統看護学講座 基礎看護学 [3] 基礎看護技術Ⅱ (2009) 医学書院, pp.168-171」である。

3. データ収集期間

平成22年11月～平成23年1月

4. 分析方法

収集した資料に記載されている「陰部洗浄を行うタイミング、使用物品、手順」についての記述統計

5. 倫理的配慮

対象とする書籍および視聴覚教材は、公的に出版されているものとした。

本研究は、関西看護医療大学研究倫理審査委員会の審査を受け、承認を得ている。（承認番号20）

III. 結果

1. 分析対象

1) 書籍

紀伊国屋書店Book Web Proの表題に「看護技術」「介護技術」が含まれる書籍を検索した結果、総数は107冊であり、実際に記載内容を確認できたものは82冊であった。

2) 視聴覚教材

日本看護協会，医学映像教育センター，INTER MEDICAで検索した結果，総数は12あり，実際に映像内容を確認できたものは6あった。

2. 分析結果

1) 陰部洗浄を行うタイミング

陰部洗浄を行うタイミングについて記載のあるものは，書籍で10冊，視聴覚教材では3つ，そのうち音声のみ2つ，排便があった患者への陰部洗浄と状況設定したもの1つであった。また，実際の表記内容は，表1に示す通りであった。

表1 陰部洗浄のタイミング

書籍 (n=9 複数回答あり)	排便後・排泄後(4)、汚れた時(3)
	排便などのオムツ交換時(2)
	オムツ使用者は最低1回/日(2)、最低1回/日(3)、毎日の保清(3)
視聴覚教材 (n=3 複数回答あり)	排便後(2)、汚れた時(3)
	毎日の保清(1)

表に示したように，排便と規定するものもあったが，排泄等で汚れた時とするものがほとんどで，それ以外に，臥床患者に対する援助技術として「1回/日」あるいは「毎日の保清」といった表現もみられた。

2) 陰部洗浄の使用物品

①便器もしくはオムツの使用

表2に示すように，書籍で，便器を使用とする教材は21，オムツを使用とするものは3教材，便器を使用する方法が基本として記載されているがオムツに関する記載もされている教材は5つあった。視聴覚教材では，便器使用のものが2つ，オムツ使用のものが3つ，そのうち1つは便器を使用する場合の説明があった。

表2 便器もしくはオムツの使用

便器/オムツ	書籍数 n=29	視聴覚教材 n=5
便器	21	2
便器(オムツの説明あり)	5	0
オムツ	3	2
オムツ(便器の説明あり)	0	1

便器を使用する方法を基本としてオムツに関する記載もあった5冊には，「差し込み式便器の使用が困難な場合」「腰部挙上や体位変換が困難な場合，また臀部に創部がある場合」「便器の使用により，患者が痛がる場合」といったオムツを使用する場合の条件が記載されていた。また，「体型によっては，楽にケアを行えることができる」という援助者側の状況を記載しているものもみられた。

一方，オムツを使用する方法を基本として便器に関する説明のあった教材では，「下着を使用している（オムツを着用していない），オムツが汚れている（汚れて使用できない）場合」に便器を使用するとしていた。

②便器およびオムツ以外の陰部洗浄で使用されている物品

便器およびオムツ以外の陰部洗浄で使用されている物品の記載内容には大きな違いは見られず，また，書籍と映像でもほぼ同じ内容であった。しかし，現在，臨床で必要とされているスタンダードプリコーション（標準予防策）に関する物品（手袋，ガウン，ゴーグルなど）の記載のないものが多かった。

3) 陰部洗浄の手順

女性に行う方法で手順がわかるものは26（書籍22，視聴覚教材4）あった。そのうち，「前から後ろに向けて洗う」「上から下に向かって洗浄する」のような，大まかな記載であったのは書籍の14教材であった。

男性に行う方法の場合，手順がわかるものは24（書籍22，視聴覚教材2）あった。書籍のうち，具体的な部位および手順があるのは15教材であり，順序の記載がない3教材でも陰部洗浄部位の詳細が記載される傾向にあった。また，男性の陰部洗浄を説明する視聴覚教材2つのうち1つは説明がなく映像のみであった。

4) 方法の根拠

「便器を使用するのか，オムツを使用するのか」以外の陰部洗浄方法に関して明確な根拠を記載した教材はほとんどみられなかった。

IV. 考察

1. 陰部洗浄を行うタイミング

陰部洗浄を行うタイミングについては、ほとんどの資料に記載がみられなかった。武田ら（2005）、吉川ら（2006）の報告によると、陰部洗浄は実習で高頻度に経験する技術の1つである。そのため、陰部洗浄を行う状況や頻度についての記載がないことは、実習で経験する患者の状況をどのように判断したらよいのかといった学習につながりにくいと考えられる。

2. 使用物品

陰部洗浄に使用される物品では推察したとおり便器使用が主流であり、便器とオムツのどちらをどのような状況で使用するかの判断につながる選択条件の記載も少なかった。今回、オムツ使用の選択条件に、便器使用による体勢の不安定さと仙骨部の疼痛などの身体的負担や羞恥心の軽減、ケア提供者の物理的な利便性といったものがあげられていた。しかし、石鹼や洗浄剤が皮膚に残留すると皮膚表面のpHが弱酸性に保たれず、皮膚トラブルの原因となるため、石鹼分を十分に洗い流すために必要な湯量は1,000mlとする文献（佐藤, 2004）もあり、現存するオムツでは、吸水力により、使用する微温湯が400～800ml程度に限られ、背部や殿部の部分だけで湯を吸収してしまいあふれてしまうこともある（平尾 他, 2004）。そのため、陰部の汚染度の強さによっては、十分な洗浄効果を得るまでに数枚のオムツや、防水のための処置用シーツを使用しなければならない。また、誤って患者の寝衣や寝具をぬらすなどの他、患者の皮膚が洗浄中汚物に接着している時間が長いため、本来の目的を果たさないばかりでなく、身体、心理的不快感や時間的、経済的、環境的な問題も生じやすいといえる。ゆえに、便器とオムツのどちらをどのような状況で使用するのか、あるいはもっと別のものを選択すべきなのかといったことが、それらの根拠とともに記載されることで、より適切な選択を行うことができると考える。

また、その他の物品では、感染予防に関するものの記載が手袋とエプロンのみであり、記載されている書籍も少なかった。厚生労働省の『「新人看護職員の臨床実践能力の向上に関する検討会」

報告書』（2004）によるとスタンダードプリコーションの実施は習得を目指す項目に挙がっている。しかし、今回調査した既存の書籍および視聴覚教材では臨床にあわせた物品となっておらず、現状に合わせた教材にしていく必要がある。

3. 陰部洗浄の手順

女性患者の洗浄手順については大まかな記載が多かった。人体の構造や解剖生理に長けていない初学者であっても、単に手順を覚えるといった状況を回避し、陰部洗浄の目的である「陰部の清潔を保つ」ための技術の習得につなげるために、明確な記載が必要であると考えられる。

4. 方法の根拠

使用物品および手順、具体的な方法に関して、明確な根拠を基に記載されている教材がなかった。臨床では、患者の状態や実践状況において瞬時に判断し適切な看護援助を提供することが必要である。そのためにも、看護基礎教育課程において「なぜその物品を使用するのか、なぜそのような方法で行うのか」、これらの根拠に基づいた学習とその実践が必修である。

今後、状況に応じた適切な陰部洗浄の判断につながる記載と、陰部洗浄の目的を達成するための手順の根拠を明らかにしていく必要がある。

V. 結論

1. 陰部洗浄を行うタイミングについて記載のあるものは少なく、表記内容は、排泄等で汚れた時とするものがほとんどであった。

2. 陰部洗浄の使用物品として、便器を使用する方法が基本として記載されていた。便器およびオムツ以外で使用されている物品の記載内容には大きな違いは見られなかった。しかし、現在、臨床で必要とされているスタンダードプリコーション（標準予防策）に関する物品（手袋、ガウン、ゴーグルなど）の記載のないものが多かった。

3. 陰部洗浄の手順において、女性に行う方法は、「前から後ろに向けて洗う」「上から下に向かって洗浄する」のような大まかな記載の方が多かった。

男性に行う方法の場合、具体的な部位および手順があるものが多く、順序の記載がない教材でも陰部洗浄部位の詳細が記載される傾向にあった。

4. 「便器を使用するのか、オムツを使用するのか」以外の陰部洗浄方法に関して明確な根拠を記載した教材はほとんどみられなかった。

引用・参考文献

田代ひろみ，門井貴子，水野美香，佐藤美紀，曾田陽子，小松万喜子，大島弓子：基礎看護学実習における看護技術の経験状況と技術修得の課題，愛知県立看護大学紀要，11巻，pp.51-58，2005.

永松有紀，室屋和子：成人看護学実習(急性)における学生の看護技術経験の実態，産業医科大学雑誌，30巻3号，pp.359-372，2008.

武田洋子(山梨県立看護大学短期大学部基礎看護学)，小林たつ子，寺田あゆみ，田邊千夏，中谷千尋，北村愛子，松本美富士，巴山玉蓮，古屋洋子，大久保ひろ美，上田康子，望月美鶴，渥美一恵：卒業時の学生の看護技術に対する自信と臨地実習での学習体験との関連，山梨県立看護大学短期大学部紀要，11巻1号，pp.69-80，2005.

吉川洋子，平野文子，三島三代子，加藤真紀，三原真琴，井山ゆり，松岡文子，小池千晶，長崎雅子，曾田陽子：臨地実習における看護基本技術の経験・到達状況と課題，日本看護学会論文集：看護教育，36号，pp.143-145，2005.

佐藤文：基本的なスキンケア方法，臨床看護，30巻8号，pp.1202-1207，2004

平尾清美，木下洋子：ここさえ押さえればうまくいく基本の技術，ナーシングカレッジ，p.74，2004.

厚生労働省：「新人看護職員の臨床実践能力の向上に関する検討会」報告，(平成16年3月10日)
<<http://www.mhlw.go.jp/shingi/2004/03/s0310-6.html>> (情報取得 2012/10/5)